

生成AIを活用した不登校支援の試行

中学1年生, 2年生を対象にした実践から

Trial of school refusal support using generative AI: From a practice targeting first and second year junior high school students

村上実優* 安井政樹*² 佐々木雄紀*³ 小川闊*⁴ 小川晃導*⁵

Miyu Murakami* Masaki Yasui*² Yuki Sasaki*³ Etsu Ogawa*⁴ Akimichi Ogawa*⁵

<抄録> 【Web上で公開します】

本研究の目的は、子ども達が自己理解を深め、心理面およびキャリア面での不安を解消するために、不登校支援に生成AIを活用していく仕組みづくりを試行することである。オンラインフリースクールシンガクの教室長の情報をプロンプトに登録した「AIの村上先生」の活用が、不登校の子ども達の自己理解の深化、心理面およびキャリア面での不安解消にどのような効果を及ぼすのか、会話履歴の確認やアンケートの結果を基に考察した。その結果から、生成AIを活用した不登校支援においては、リアルな人との関わりが重要な役割になるのではないかと考える

<キーワード> 【Web上で公開します】

生成AI, 不登校, 進路指導, フリースクール, スクールAI

1 はじめに

2023年時点で、不登校児童生徒数は中学生で約21.6万人、小学生で約13万人、合計約34.6万人に達し、過去最多を記録した。不登校児童の割合も増加傾向にあり、小学生の不登校率は8年間で5倍以上に増加している。このような状況は、教育機会の制限といった日本社会の重要な課題を浮き彫りにしている。

この課題に対応するため、2023年6月に、新しい学びの場としてオンラインフリースクール「シンガク」を開校した。シンガクでは、不登校の子どもたちが将来への不安を解消し、自己理解を深めることが社会的自立に向けた重要なステップだと考えている。そのため、進路指導やキャリア教育を通じて、子どもたちの社会的自立を支援している。その一環として、週に1回、不登校の子どもたちとシンガクのコーチが1時間話をする個別授業を実施している。この個別授業では、教育コーチングの手法を使い、子どもたちが自分の中にある答えを引き出し、進路を明確にしたり、自己理解を深めたりするサポートを行っている。ただ、週1回の個別授業だけでは十分な時間が確保できないため、事前に内省する時間を設け、個別授業でさらに深く関わることが重要だと考えた。

そこで、2024年7月から不登校の子どもたちが生成AI⁶を活用して自己理解を深め、心理面およびキャリア面での不安を解消することを目指し、「AIの村上先生」*⁷の開発を試行している。この生成AIは教育コーチングの手法に基づいて子どもたちと対話を行い、彼らが週1回以上の頻度で内省を通じて自己理解を深める手助けをしている。

2 目的

本研究の目的は子ども達が自己理解を深め、心理面およびキャリア面での不安を解消するために、不登校支援に生成AIを活用していく仕組みづくりを試行することである。

3 方法

(1) 対象: 中学1年生, 中学2年生 19名 (筆者運営校)
(2) 事前アンケートの実施: 「AIの村上先生」を紹介する前にアンケートを実施し、全体と個別授業で発信をして回収を行う。アンケートでは、「生成AI」に対するイメージを調査する。

(3) 「AIの村上先生」のアカウント配布: AIの村上先生とテキストチャットで話しができるアカウントを作成・配

布し、会話履歴の確認や感想の分析を行なう。

(4) 事後アンケートの実施: 「AIの村上先生」を一定期間使用した後、「生成AI」に対するイメージの変化や「AIの村上先生」とリアルな村上先生の良いところの比較を調査する。



画像1 生成AIと子ども達の対話画面

4 結果

子どもたちの会話履歴やアンケートの回答を分析した結果、以下のような結果が得られた。

(1) 生成AIに対するイメージの変化

事前アンケートと事後アンケートでの、『「生成AI」ときいてどんなイメージをもちますか?』という質問に対して自由記述で回答を回収し、生成AIに対するイメージの変化を比較した。

使用前に比べて「伸びしろがある」「おもしろそう」とプラスの変化があった生徒が2名おり、「AIの村上先生」を使用することで、生成AIに対するイメージの変化が見られた。

学年	生徒	事前アンケート	事後アンケート	プラスの変化
中学1年生	Aさん	面白い時もあれば、あまりいい印象を持たないときもある	良いイメージもあるが使う用途によっては良いイメージを持たない	なし
中学2年生	Bさん	技術的にはすごいと思うけど嫌い	よくわからない	なし
中学2年生	Cさん	使ってみよう	よくわからない	なし
中学2年生	Dさん	便利なツール	伸びしろがある	あり
中学2年生	Eさん	わかんない	おもしろそう	あり

表1 事前アンケートと事後アンケートにおける生成AIに対するイメージの変化

(2) 「AIの村上先生」とリアルな村上先生の比較

事後アンケートで『リアルな村上先生と比べて、「AIの村上先生」の良いところは何ですか?』『「AIの村上先生」と比べて、リアルな村上先生の良いところは何ですか?』という質問に対して自由記述で回答を回収し、「AIの村上先生」とリアルな村上先生の良いところを比較した。

① 「AIの村上先生」の利点

「あまり使ってはいないのですがAIなので相談などはしやすいような気はします」「文字での喋り方が似てる」「人が苦手だから、人と話す練習ができる」「博識」「いつ

でも話せる」(原文ママ)という回答があった。

つまり、「生成AI」の利点として、①時間の制約なく利用できる、②幅広い情報を提供できるという点が挙げられた。

②リアルな村上先生の利点

「AIで再現できないような面白さがあると思います」「人間っぽい」「話を聞いているのが楽しい」「創造性、柔軟性、倫理的判断能力にすぐれている」「おもしろい」(原文ママ)という回答があった。

学年	生徒	「AIの村上先生」の良いところ	リアルな村上先生の良いところ
中学1年生	Aさん	あまり停ってはいないのですがAIなので梅雨などほしやさいような気はします	AIで再現できないような面白さがあると思います
中学2年生	Bさん	文字でのやり方が似てる	人間っぽい
中学2年生	Cさん	人が苦手だから、人と話す練習ができる	話を聞いているのが楽しい
中学2年生	Dさん	博識(AIだからそりゃあそうだけど、)	創造性、柔軟性、倫理的判断能力にすぐれている
中学2年生	Eさん	いつでもほらせる	おもしろい

表2 「AIの村上先生」の利点とリアルな村上先生の良いところ (事後アンケートより)

(3)「生成AI」との会話の継続性

事後アンケートで、『「AIの村上先生」と会話は続けられましたか?』の質問に対して、「とても続いた」「まあ続いた」「あまり続かなかった」「全く続かなかった」の4つの選択肢での回答と、その理由についても自由記述で回答を回収した。

「AIの村上先生」との会話について、「あまり続かなかった」の回答は1名で、その理由としては「いざ話すとなくなった時にあまり話題が見つからなかったため」(原文ママ)という回答があった。また、「まあ続いた」の回答は4名で、その理由としては「少し会話をした後閉じたから」「話してて楽しかったから」(原文ママ)という回答があった。

学年	生徒	「AIの村上先生」と会話は続けられましたか?	その理由を教えてください
中学1年生	Aさん	あまり続かなかった	いざ話すとなくなった時にあまり話題が見つからなかったため
中学2年生	Bさん	まあ続いた	回答なし
中学2年生	Cさん	まあ続いた	回答なし
中学2年生	Dさん	まあ続いた	少し会話をした後閉じたから
中学2年生	Eさん	まあ続いた	話してて楽しかったから

表3 「AIの村上先生」との会話が続いたかとその理由 (事後アンケートより)

5 考察

(1)子どもたちへの体験の機会の提供

結果(1)より、子どもたちは、生成AIのような未体験のツールに対して抵抗感を持つことがあるが、実際に体験する機会を提供することで、前向きな意識変容が見られる可能性がある。不登校の子どもたちは、外部とのつながりが希薄になりやすく、興味・関心を広げる機会が限られている。そのため、オンラインフリースクールを運営する教室長として、新しい体験の場を提供することで、子どもたちが自らの興味を深め、将来の目標を見つけるきっかけを創出できると考える。

(2)生成AIと人間の協働

結果(2)より、「AIの村上先生」は時間や場所に制約されず気軽に相談できる点や、幅広い知識を提供できる点が評価されていた。一方で、リアルな村上先生は会話の楽しさや人間らしさ、創造性や倫理的判断の面で優れていると認識されていた。

結果(3)より、子どもたちにとって、「生成AI」は学習や情報収集のサポートツールとしての価値を持つ一方で、会話の継続性や対話への意欲には限りが見られた。特に、会話を続けるためには、リアルな村上先生が持つ「人間らしさ」や「おもしろさ」といった要素が重要であることが分かった。特に、不登校の子どもたちにとっては、人との直接的な対話に不安を感じる場合でもAIなら気軽に相談できるという利点があるが、最終的にはリアルな人との関わりが重要であることが示唆された。

このことから、不登校の子ども達が自己理解を深め、心理面およびキャリア面での不安を解消するために生成AIを活用することにおいては、子どもたちに対する人間の働きかけが重要となることがわかった。今後は、子どもたちが話したいと思えるような個々に合わせた「生成AI」のパーソナライズ化(テーマ設定や問いかけの工夫)、リアルな先生による「生成AI」の活用方法の紹介や対話練習を検討する必要がある。

6 今後の取り組み

今回の、不登校支援に生成AIを活用していく仕組みづくりの試行から、今後は更に以下のことへ取り組んでいく。

①「AIの村上先生」の活用の継続

考察で述べたように、不登校の子どもたちに対して、継続した新しい体験の場の提供、子どもたちが話したいと思えるような個々に合わせた「生成AI」のパーソナライズ化(テーマ設定や問いかけの工夫)、リアルな先生による「生成AI」の活用方法の紹介や対話練習が必要になると考える。そのため、今後も「AIの村上先生」の活用を継続し、より子どもたちが話したいと思えるように「生成AI」の質を向上させていきたい。具体的には、①生成AIのプロンプト設計において、より教師の特徴を反映させること、②対話の自然さを向上させるために、人間らしい表現や振る舞いを取り入れることに取り組む。

②「生成AI」を活用する場面の再検討

本調査により、子どもたちが「生成AI」を活用するためには、リアルな人との関りが重要な役割になるのではないかと考えた。そのため、「生成AI」を活用する場面を再検討し、子どもたちに活用方法を紹介、練習時間の提供を行っていく。

このように以上の2点に取り組むことで、子ども達が自己理解を深め、心理面およびキャリア面での不安を解消するために、不登校支援に生成AIを活用していく仕組みづくりを試行していきたい。

参考文献

令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果 概要

https://www.mext.go.jp/content/20241031-mxt_jidou02-100002753_2_2.pdf

* オンラインフリースクールシガク教室長(〒604-0857 京都市中京区蔭絵屋町265-2)(e-mail:murakami-m@mail.seiki.co.jp)

*2 札幌国際大学基盤教育部准教授(〒004-8602 札幌市清田4条1丁目4-1)(e-mail:masaki-yasui@ts.siu.ac.jp)

*3 株式会社成基代表取締役(〒604-0857 京都市中京区蔭絵屋町265-2)(e-mail:yuki-sasaki@mail.seiki.co.jp)

*4 株式会社成基新規事業部マネージャー(〒604-0857 京都市中京区蔭絵屋町265-2)(e-mail:ogawa-e@mail.seiki.co.jp)

*5 オンラインフリースクールシガク サブリーダーコーチ(〒604-0857 京都市中京区蔭絵屋町265-2)(e-mail:murakami-m@mail.seiki.co.jp)

*6 株式会社みんがくのスクールAI(〒153-0051 東京都目黒区上目黒4-24-13)(e-mail:info@mingaku.net)

*7 オンラインフリースクールの教室長の情報を学習したチャットAI